くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2015年3月1日
（No.77・今年は創立20周年だよ号）

2015 ＊ 3月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://kappa-no.net/eco-shiki/

写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（5）

アカバッケ

柳瀬川をさかのぼり清瀬金山緑地公園を過ぎると、右手（左岸）に高さ20m程の大きな崖が迫ってきます。この松柳橋正面の崖はアカバッケと呼ばれ、今はコンクリート枠の擁壁で覆われていますが、かつてはローム層（赤土）や礫層が露出して地層の構造を観察することができたそうです。古多摩川が青梅の西から土砂を押し出し、その上に火山灰が降り積もってできた武蔵野台地を、古多摩川の名残でもある柳瀬川が長期間浸食した段丘崖です。

（天田 眞）

1月11日（日）

ガンカモ類の生態調査

調査風景［写真：青木明雄］

埼玉県生態系保護協会主催の「ガンカモ類の生態調査」に調査協力を始めたのは、エコシティ志木が設立された翌年1月からで、今年でちょうど20回になりました。20年前の1996年1月の調査では、今では見られなくなった、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなど9種類1,085羽が観察されました。その後3年間ぐらいは8～9種類1,000羽位でしたが、2000年を境に種類・数ともに減り始め、ここ8年間は4～5種類・200羽台です。

減少の原因はいろいろあると思いますが、釣り人の増加、毎年冬場の川の浚渫工事や橋の耐震化工事、高橋と栄橋の間の商業施設やマンション建設も影響しているかも知れません。

当日は志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者9名で歩いてカモの種類と数を数えました。

県内全体のカモは、17種39,265羽で、昨年17種32,515羽からは、種類は変わらず、数で6,750羽増でした。ガンカモ調査となっていますが、県内では5年連続でガン類は確認されていません。

柳瀬川では、カモは4種298羽で、昨年と種類は同じでしたが、数は70羽増えました。

内訳は次のとおりです。（　）は昨年

ヒドリガモ	83羽	（137羽）
オナガガモ	43羽	（　5羽）
コガモ	142羽	（61羽）
カルガモ	30羽	（25羽）
マガモ	0羽	（　0羽）

（山崎光久）

2月1日（日）冬の野鳥観察会（柳瀬川）

野鳥観察会に参加して

朝食を狩り中のダイサギ（左）とコサギ［写真：青木明雄］

寒風の晴天の中、総勢23名がサミット裏の柳瀬川土手に立つ。ヒドリガモ、オナガガモが沢山出迎えてくれる。幸先がいいな。

朝の食事タイムなのか、逆立ちして餌を探しているのもいる。スタッフの周りに集まり、カモの特徴を聞く。ヒドリガモは、頭のところが緋色だからだそうだ。オナガガモは、頭はこげ茶、胸は白く、雄が尾をピンと伸ばしている姿はなかなか素敵だ。

私のお気に入りは、コガモ。目の周りの緑色と黄色のパンツが目印。

東上線の鉄橋をくぐり、土手に上ると、今度はサギのお出迎え。ダイサギ、コサギが、朝食の狩りの真最中。ラッキーにも、キラキラした小魚をくわえたコサギを見る事が出来た。アオサギは、岸近くに悠然と立っている。かれの目にはどんな世界が見えているのだろうか。

ひとりの時には、なかなか見つけられないキセキレイもじっくり観察できた。一定のところを行ったり来たり。何をしているのかと思っていたら、食事中との事。小さな羽虫などを捕食しているとの説明があった。

その他、忍者の如く砂利に紛れてなかなか見つけられないイカルチドリ。カワウ、オオバン、モズ、カイツブリなど、全部で26種類も観察できた実のある2時間であった。

最後に天田さんの話された「双眼鏡の中の小さな世界を支えている双眼鏡の外の環境を大切にしなければ」という言葉に深く頷いた私でした。

（竹野延枝）

2014年　柳瀬川の野鳥集計

現在、富士見橋では橋脚の耐震補強工事がおこなわれており下流の水が濁り気味です。が、ヒドリガモ368羽、カルガモ238羽、コガモ241羽、また、昨年からオオバンが姿を見せるようになったり調査日外ですがオカヨシガモが観察されるなど、昨年に比べて水鳥類は数・種とも微増傾向です。（毛利）

●調査方法

1）毎月第３日曜日午前（1997年６月より実施）
2）一定の速度で歩きながら出現した野鳥の種名・数を記録
3）コース　　志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 柳瀬川左岸 → 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

＊主催＝NPO法人エコシティ志木／埼玉県生態系保護協会志木支部
＊記録および6月以降の調査記録＝山崎光久

	鳥　　名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	カイツブリ	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	カワウ	2	5	3	1	3	0	0	3	2	0	0	2
3	ヒドリガモ	99	52	66	0	0	0	0	0	0	33	73	45
4	コガモ	28	96	34	5	0	0	0	0	4	28	26	20
5	マガモ	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	カルガモ	24	20	14	7	18	36	37	17	39	8	8	10
7	オナガガモ	5	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	アオサギ	7	3	2	1	3	2	4	3	3	3	4	4
9	ダイサギ	1	1	0	0	0	2	1	1	4	6	1	2
10	チュウサギ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
11	コサギ	3	3	5	4	0	0	2	3	3	5	3	2
12	オオバン	3	3	5	0	0	0	0	0	0	0	1	3
13	セグロカモメ	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	イカルチドリ	12	9	6	2	1	0	0	15	0	14	6	7
15	コチドリ	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
16	イソシギ	4	5	7	6	2	0	0	0	1	1	2	5
17	タシギ	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	ノスリ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	トビ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ハヤブサ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	キジ	1	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0
22	キジバト	4	6	6	5	4	6	2	7	3	2	3	5
23	カワセミ	2	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
24	ヒバリ	3	1	4	3	3	0	0	0	0	1	0	0
25	ツバメ	0	0	0	24	13	11	20	0	0	0	0	0
26	キセキレイ	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
27	ハクセキレイ	13	9	12	5	4	1	5	2	8	12	23	13
28	セグロセキレイ	7	7	5	0	0	0	0	0	2	1	10	9
29	タヒバリ	14	11	16	0	0	0	0	0	0	0	5	10
30	ヒヨドリ	7	1	4	6	3	0	4	2	0	10	20	18
31	モズ	2	1	3	0	1	0	0	0	0	2	2	2
32	ジョウビタキ	1	1	3	0	0	0	0	0	0	2	1	0
33	ツグミ	5	20	16	13	1	0	0	0	0	0	0	1
34	オオヨシキリ	0	0	0	0	11	14	0	3	0	0	0	0
35	セッカ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
36	シジュウカラ	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
37	メジロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
38	ホオジロ	0	12	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0
39	カシラダカ	10	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
40	アオジ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	オオジュリン	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
42	カワラヒワ	0	11	0	3	1	6	0	4	0	1	8	25
43	シメ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	スズメ	49	29	81	28	44	37	28	84	83	20	46	48
45	ムクドリ	2	108	62	31	39	26	17	7	13	3	2	0
46	ハシボソガラス	2	1	6	3	5	12	0	2	3	1	2	7
47	ハシブトガラス	1	0	12	3	0	0	20	3	3	0	1	0
	ドバト	10	5	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	アイガモ・アヒル	0	4	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0

11 月 30 日（日）ぶらり散歩―野火止用水を歩く〈第 1 回　志木駅から清瀬まで〉

水路は消えても地形の記憶が残る

新シリーズは野火止用水を志木市から遡って最終的には多摩川の取水堰まで歩く予定で、第 1 回 (11/30) は清瀬駅まで。

集合したのは志木住宅公園付近の東上線地下横断路です。ここは枝分かれした野火止用水の分流のひとつが暗渠になっている場所で、40 年近く前には小流（用水）が流れていたのを記憶しています。河川はそれが地上から消えても地形の記憶が残ります。店舗や住宅の裏側をくねくね続くその痕跡をたどって歩きながら、かつての水の流れと付近の様子を想像し、それが今の街につながる文化の基礎になったことを考えるのは楽しいものです。

新座市と朝霞市の境の建て込んだ住宅街を歩くと「野火止用水堀記念碑」に出ました。

意外に知る人の少ない碑です。JR 武蔵野線を渡った先には用水の流れがそのまま窪地として残された場所があり、さらに用水がほんの少し地上に現れている個所もあり、今でも排水溝として機能していることがわかります。

野火止用水堀記念碑（写真・青木明雄）

旧川越街道から平林寺付近へで復元された用水路を豊かに水が流れ、周辺は散策路になっています。「野火止運動公園」で休憩・昼食後、本流に沿った本多緑道や暗渠になっている西堀地区を歩き、新堀コミュニティセンターで用水路絵図の展示も見学。午後 3 時前に清瀬駅に到着しました。

（筑井信明）

第 1 回 生きものフォーラムで当会の活動を報告

発表する天田代表

2 月 14 日に「NPO 法人いろいろ生きものネット埼玉」が主催する「第 1 回生きものフォーラム」が、「市民会館おおみや」で行われました。テーマは「外来生物問題を考える」～外来植物対策を中心に～です。早稲田大学人間科学学術院教授の三浦真悟氏による記念講演「シカと日本人、保護と管理をめぐる過去と現在」、NPO 法人絶滅危惧植物種調査団代表理事の牧野彰吾氏による基調講演「外来種のとらえ方」、NPO 法人いろいろ生きものネット埼玉理事の嶋田知英氏による「外来植物アンケート結果報告」が行われた後、生物多様性保全活動報告として、エコシティ志木の活動を天田代表が行ないました。

柳瀬川でのオオブタクサとアレチウリの駆除作業やいろは親水公園のヨシ・オギ群落保全地での保全作業など、これまで行なってきた取り組みについて、写真も使って説明を行ないました。限られた時間ではありましたが、参加者によく伝わったのではないかと思います。

最後のフロアディスカッションでは、活動メンバーの高齢化や駆除参加者の人で不足といった共通の課題も話題となりました。懇親会にも参加し、ネットワークを深めてきました。　（青木明雄）

12月14日（日）第10回 川でつながる発表会〈会場：所沢市立所沢小学校〉

東川の地下河川（直径5.2m）流入口を見学

当会も参加している新河岸川流域川づくり連絡会等が主催する、新河岸川流域の小・中・高校や大学生の川に関する活動・研究の発表会です。毎年、新河岸川流域のどこかの河川の近くの学校等を会場に開催され、発表会に先立ち河川の見学会があります。

今年の会場近くを流れる東川は狭山丘陵の北東側斜面を水源とし、所沢市の中心部を流れ、関越自動車道の脇で柳瀬川に合流しています。都市型河川であり、ちょっとした大雨で溢れやすいのですが、市街地では川幅を広げられないため、川に沿って直径5.2mの地下河川を掘り、増水時に水を流すようになりました。

発表会は小学生から大学生まで、発表内容にかなりの違いがあり、参加者のつながりの面からは企画の難しさを感じました。当会は活動風景の写真を展示しました。

主催の新河岸川流域川づくり連絡会は国土交通省荒川下流河川事務所が主催し、【いい川づくりに向けた、総合治水対策、水循環、多自然川づくりの推進】【国・都県・区市町と市民の保有する流域内の情報交換・共有】【多くの流域住民がいい川づくりについて考えるための普及啓発】を目的とし、年4回の定例会議、年3回の新聞『里川』の発行、各団体が開催する川まつりへの協力等の活動を行っています。（天田 眞）

地下河川の流入口

2月8日（日）川の再生交流会　主催：埼玉県

川の再生交流会に参加して

2月8日に、埼玉県主催の「川の再生交流会」が、「埼玉市民会館うらわ」にて行なわれました。川の再生活動を行っている団体などが一堂に会し、活動事例の発表や意見交換を行なう会です。この日の参加者は、460名余りでした。エコシティ志木からは、天田代表と私の2人が参加しました。

開会は、栄東中学・高等学校のオープニングコーラスから始まり、感謝状の贈られた越谷市大間野小学校4年生と保護者の皆さんによる「綾瀬川の生活雑排水対策」の取組みについての発表が行われ、川の国埼玉宣言が行なわれました。この後、4つの川の再生活動事例の発表があり、昼食時間となりました。

当会では、会場の展示場に活動状況の写真パネルを展示し、参加者に見てもらいました。

午後に入り、7つの分科会が行なわれ、天田代表が「環境学習　地域と学校」に、私は「100プランとまるごと再生交流」に参加しました。ここでは、3つの地域の報告がありましたが、中でも、毎週のように近くまで行っている都幾川の活動報告について、興味深く聞くことができました。いつも、本来の自然環境を大切に残していくのか、整備して人が楽しめる水環境造りを図るのかという点に強い関心を持って聞かせてもらっており、また1つ思うところができました。（青木明雄）

河川敷の外来植物駆除活動

NPO法人エコシティ志木代表理事　天田　眞

志木中生徒の作業前の説明（2006年）

別ページに報告があるように『第1回生き物フォーラム～外来植物対策を中心に～』が開催され、エコシティ志木では、長年続けてきた河川敷の外来植物対策の様々な取り組みについて事例報告を行いました。そこで、当会の外来植物対策を振り返り、ここでも報告することとします。

（1）柳瀬川における活動

エコシティ志木が設立された1995年頃から、柳瀬川や新河岸川で埼玉県により年間2回行われている高水敷の草刈りの際に、生き物の棲みかを確保するために、低水路沿いの部分2～4m位を刈り残すようになりました。刈り残し部分の本来の植生としてはヨシやオギを期待していたのですが、やがて**オオブタクサ**が繁茂してきたため、98年夏に初めての抜き取り作業を、会員有志6名で1回やってみました。

99年には柳瀬川に面する志木中学校に呼び掛け、生徒30名ほどが抜き取り作業に参加。その後は毎年1回の志木中生徒の参加が定例化し、参加人数は徐々に増え、今では毎年100名以上になっています。他に、会員数名による作業を初期の頃は1・2回行っていました。

初期の頃は主にオオブタクサが中心で『オオブタクサ抜き取り作戦』の名称でしたが、やがて**アレチウリ**（特定外来生物）も多くなり『外来植物抜き取り作戦』と名称を変え、この2種を主な対象とした活動になりました。アレチウリの繁茂は年々ひどくなってきたため08年ごろから作業回数を増やし、12年には会員有志数名で10回、志木中生徒で1回の作業を行いましたが、それでもアレチウリの完全な駆除は困難でした。

その他の主な外来植物は**セイバンモロコシ・イヌキクイモ・ホソアオゲイトウ・セイヨウカラシナ**等ですが、セイバンモロコシは至る所で増えており、夏季には刈り取ってもすぐに伸びて穂を出し、多年草で地下茎で増殖するため駆除は困難です。また、水際や浅瀬には**オオフサモ・オオカワヂシャ**（いづれも特定外来生物）も増えてきました。

埼玉県朝霞県土整備事務所では2013年から、毎年一定の工区を定め、高水敷に長年堆積した土砂を約70㎝程の深さで掘削し排除しており、その部分では土の中に含まれているオオブタクサやアレチウリの

40周年記念『水辺のお助け隊』（2010年）

種子とともにセイバンモロコシの地下茎も除去され、外来植物問題も一旦は解消されてしまいます。しかし、ヨシ・オギ等の在来種も同様に除去されてしまいます。

(2) 志木市市制施行 40 周年記念事業

2010 年に市制施行 40 周年を記念し市民実行委員会が実施した事業の中に、当会が提案した外来植物問題に関する次の 2 点からなる事業も取り上げられました。

① 新河岸川河川敷で、市民・中高生・スタッフ、約 120 名が参加し、オオブタクサ・アレチウリの抜き取り体験『水辺のお助け隊』を実施しました。

② 河川敷に多い外来植物の紹介と問題点や駆除方法についての啓発パンフレット『新河岸川と柳瀬川にはびこる外来植物』(A5 判 8 ページ) を当会で編集し、市民実行委員会から発行しました。

40 周年事業が終了した次年度には、駆除作業『水辺のお助け隊』を当会主催で実施し、また、『新河岸川と柳瀬川にはびこる外来植物』は版権を当会に移し、助成金を得て再版しました。現在は、当会のホームページで公開しています。

(3) 川のまち志木☆水辺応援団養成講座

40 周年事業は市民に外来植物問題を知ってもらうのに役立ちましたが、この問題をより深く理解し、我々とともに継続的に作業に取り組んでもらえる人材を養成しようと、2013 年 6 ～ 9 月に柳瀬川をフィールドに、講義 (柳瀬川・外来種・水辺の生き物・多自然川づくり・・・・等について) と区画を定めての植生調査と抜き取り作業を組み合わせた全 7 回の講座を開催しました。

(4) いろは親水公園ヨシ・オギ保全区

2010 ～ 11 年度に新河岸川・柳瀬川合流点一帯が県の『水辺再生 100 プラン』事業で整備され、13 年度からはそのほぼ全域が市の『いろは親水公園』に指定されました。その中の『ヨシ・オギ群落保全地』を 13 年度に継続調査し、オオブタクサの大量発生を確認、また、準絶滅危惧種のカヤネズミの巣を多数発見しました。そこで、14 年度に会員有志によるオオブタクサの抜き取り作業を行うとともに、さいたま NPO センター・日本 NPO センター・損保ジャパン日本興亜と協働し親子向けの啓発イベント『SAVE JAPAN カヤネズミ原っぱ環境応援作戦』を夏・秋の 2 回実施し、当初の想定を大きく上回る参加者がありました。

以上が、これまでの河川敷における外来植物問題に関連する取り組みですが、来年度も引き続き、駆除活動や啓発イベントを開催しようと検討中です。

オオブタクサの駆除に取り組む志木中生徒 (2007 年)

会員によるアレチウリ駆除作業 (2009 年)

高水敷の掘削作業 (2014 年)

『水辺応援団養成講座』の調査区画づくり (2013 年)

いろは親水公園ヨシ・オギ保全区 (2013 年)

『カヤネズミ原っぱ環境応援作戦』紙芝居 (2014 年)

2月21日（土） 志木市郷土資料館の市民文化財講座

「水塚と治水」～宗岡地区の水塚を中心に～

志木市郷土資料館の市民文化財講座で、「水塚と治水～宗岡地区の水塚を中心に～」と題した講演をおこないました。

「水塚」というレアな演題にどれほどの人が興味を示していただけるのか、とても心配でしたが当日は文化財に興味がある方など30名ほどが聴講に訪れていただきました。

当会が中心となり水塚調査員の方々と一緒に2009年から2ヵ年かけて調べた宗岡地区の水塚所有者への聞き取り調査などをまとめた報告書『水塚の文化誌』（まつやま書房　2011）をもとに、またその後、千葉県の関宿城博物館、群馬県板倉町、久喜市の水塚などを訪問して得た情報などをお話ししました。

また、現代の堤防や近隣の総合治水の施設なども紹介し、宗岡地区には水塚を象徴とする近世の治水施設から現代の治水施設まで現存しており、古くから川の恵みを得つつ川の脅威に対峙してきた地域の知恵、これらをうまく保全・継承していくことができないだろうかという問題提起もさせていただきました。（毛利将範）

宗岡地区にある、江戸時代からの水防施設「水塚」

『エコシティ志木通信』のお届けまで

通信の製本と封筒への封入作業

3カ月毎にお届けしている『エコシティ志木』通信が、どのようにして発行されているのかをご紹介します。

この記事が掲載されるのは、3月に発行される春号ですが、1月の広報部会で、紙面の割り付けを決め、全ての記事と写真の担当者を決めました。原稿締切日、印刷･発送作業日を決め、更に発行部数の確認なども、この会議で行いました。

表紙の「志木につらなる川の風景」も5回目になります。新河岸川との合流点から柳瀬川を遡ってご紹介しており、今回の場所も、この会議で決まりました。今回の担当は天田代表です。イベント参加の皆さんにも原稿をお願いしており、より親しみある「通信」になればと思います。今回は竹野さんの記事です。担当者は、写真の確保や撮影、イベントへの参加を行ないながら、記事を作成していきます。私が作成しているイベントカレンダーも対象となる3・4か月間の確認と会議室の確保を行ない、記載内容を固めます。集められた記事と写真を毛利さんが紙面に割り付けて「通信」の形ができ上がります。

いろは遊学館の印刷機で所定の部数を印刷して、折機で二つ折りにします。工作室等で印刷物をページ順に織り込み、イベントカレンダーを差し込みこんで、送付先ごとに必要部数を封筒詰めします。近隣へは、地域ごとに手分けしてお届けしています。その他の分は、宅急便でお届けしています。これからも「通信」をお楽しみください。（青木明雄）

● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は→　ファクス 048-471-4275　e-mail：qwj11624 @ nifty.com（毛利）へ
ホームページ「発見 !! 街の自然」http://kappa-no.net/sizen-info.html

❶ **エナガ**(混群) → 12月 18日(火) 西原斜面林の常連[毛利将範]
❷ **モズのはやにえ**(2) → 12月 21日(日) 水谷田んぼで。梅の木の刺にバッタが刺さっていました[発見者 :山崎光久]
③ **タヌキ**(1) → 1月 9日(金)22時頃、柏町 3丁目、志木三小正門脇で[天田いづみ]
④ **ウグイス**(1) → 1月 20日(火)西原斜面林。チャッチャッ・・と地鳴き[毛利将範]
❺ **シロハラ**(2) → 1月 20日(火)西原斜面林[毛利将範]
❻〜❽ **フユシャク**(冬に羽化･交尾･産卵する蛾　3種)西原第三公園近くの自宅の玄関前[天田眞]
→ 2月 9日(月) **ウスバフユシャク** (左)と**シロフフユエダシャク**の雄。
→ 2月 12日(木) 西原第三公園。**フユシャクの仲間**の雌。
❾ **カワセミ**(♂ 1) → 2月 15日(日) 柳瀬川右岸、高橋のたもとで[写真 :毛利将範]
❿ **ハヤブサ**(1) → 2月 15日(日) 柳瀬川の富士見橋下流。ドバトの群れを急襲するも狩り失敗[柳瀬川生き物ウォッチング]

❶ エナガ［毛利

❷ モズのはやにえ［写真：毛利

❺ シロハラ［毛利］

❻ ウスバフユシャク［天田眞］

❼ シロフフユエダシャク［天田眞］

❽ フユシャクの仲間［天田眞］

❾ カワセミ［毛利］

環境 ひとくちメモ（35）　伊藤 智明

「山の日」

「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律（平成 26 年法律第 43 号)」が公布され、国民の祝日として新たに、山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する「山の日」が 8 月 11 日に設けられることになりました。この改正は平成 28 年(2016 年）から施行され、国民の祝日の年間日数は 16 日となります。

自然に関わる国民の祝日には、「山の日」のほかにも、自然をたたえ生物をいつくしむ「春分の日」、自然に親しむとともにその恩恵に感謝し豊かな心をはぐくむ「みどりの日」、海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う「海の日」などがあります。

また、国土交通省での「川の日」、国際連合での「世界環境デー」･「世界気象の日」･「世界水の日」･「国際生物多様性の日」･「世界渡り鳥の日」･「国際森林・樹木デー」･「砂漠化および干ばつと闘う世界デー」など、国民の祝日以外の自然に関わる日もたくさんあります。

画像：全国「山の日」協議会ホームページより

自分たちで独自の地域に自然に関わる記念日を作ってみるのも面白いかもしれませんね。

（参考ホームページ）内閣府、国土交通省、国際連合広報センター

☆会員状況

2014 年度更新済み（2 月 19 日現在）
正会員(個人)　48（内２名新入会）
正会員(団体)　 2
賛助会員(個人) 2
賛助会員(団体) 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度も継続更新をよろしくお願いします。

■当会の団体正会員
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員
慶應義塾志木高等学校
志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティ協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
新河岸川広域景観づくり連絡会
彩の国南西部地域ＮＰＯ連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
埼玉県生態系保護協会志木支部
志木のまち案内人の会
志木市放課後子ども教室りんくす
グループぽんぽこ
志木市立教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

ＮＰＯ法人エコシティ志木
http://kappa-no.net/eco-shiki/

志木まるごと博物館河童のつづら
http://kappa-no.net/

エコシティ志木のホームページ
市内の自然情報満載

エコシティ志木では、広報活動の一環としてホームページから日頃の活動や、市内の自然情報の発信をおこなっています。

散策の参考に、環境学習に、環境ＮＰＯの活動情報を知りたい、そんなとき、ぜひ一度アクセスしてみてください。

検索は「エコシティ志木」「河童のつづら」などでできます。また、ホームページからも内部の個別の情報を検索できますので、ご利用ください。

行事案内や当会の概要はもちろん、会員以外の方でも「エコシティ志木通信」のバックナンバーを読むこともできます。

志木をまるごと博物館とみたてた「河童のつづら」には、自然や文化財などの情報を集めています。
特に「発見 !! 街の自然」コーナーには、市内で見かけた生き物情報がこまめに更新されています。

ブログ「日々河童のつづら」では、当会の活動の様子を、毎回写真と楽しい文章で詳しく実況報告しています。
志木市内の自然の「今」を知りたい方、当会の活動に少しでも興味を持たれた方、必見です。

志木の昆虫記22

街で出会える楽しい虫たち

天田 眞

《畑の昆虫 1》

畑を借りて野菜づくりをやっていますが、無農薬ですから当然虫がやってきます。今回はそんな昆虫を紹介します。

秋にはアブラナ科の野菜を様々作りますが中でもブロッコリー・キャベツは虫が多いです。一番多いのは**モンシロチョウ**。毎日やってきて、葉裏に長さ1mm位の細長い卵を1個ずつ産卵します。1週間以内でアオムシになりますから、最低でも週に1回は全ての葉をチェックして、なるべく卵の段階でつぶしています。この幼虫は大きくなると葉の表面中央の主脈の上で休んでいることが多いので簡単に捕まります。また、かなりの確率で**アオムシコマユバチ**に寄生されることがあり、その小さな黄色い繭の集合をよく見かけます。

同じように葉裏に1個ずつ産卵する緑色のイモムシで、シャクトリムシのように体の中央を持ち上げているのは**タマナギンウワバ**（ヤガ科）の幼虫。

葉裏に卵を数百個まとめて産卵するのは**ヨトウガ**（ヤガ科）。いわゆるヨトウムシ（夜盗虫）で、幼虫は、昼間は株元の浅い土の中や、キャベツ・ハクサイなどでは重なった葉の間に隠れていて、暗くなると出てきて葉を食害します。成長した幼虫は大食漢で大きな被害になります。ヨトウムシの仲間には**シロシタヨトウ・ハスモンヨトウ**等もいて様々な野菜の害虫です。

ヨトウムシと同じように昼には土に隠れ、夜に苗の地際部の茎を喰いきって枯らしてしまうのは**カブラヤガ**（ヤガ科）の幼虫でネキリムシとも呼ばれます。

アブラナ科に付くカメムシは**ナガメ**と**ヒメナガメ**。葉の汁を吸い、吸われた部分は茶色く枯れます。

モンシロチョウの蛹

アオムシコマユバチの繭

ヨトウガの卵塊

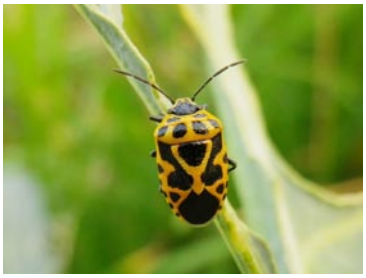
キャベツを食べるヨトウガ

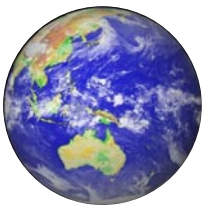
ヨトウガの成虫

カブラヤガの幼虫

ナガメの幼虫

ナガメの成虫


ヒメナガメの成虫



地球と日本の自然（16）

火山噴火とマグマ

加藤 健二

1年前の本誌73号では小笠原諸島の「西ノ島の出現（海底火山）」を取り上げましたが、その後も西ノ島は噴火を続け面積を拡大しています。その後平成26年9月には御嶽山が爆発し、多くの人が犠牲になってしまいました。それに加えて、阿蘇山の噴火継続、霧島山新燃岳の噴火警戒の拡大などと続き、日本は火山の活動期に入ったというような報道もされました。

それはともかくとして、私たちは火山国に暮らしていますので、足元の大地がまた地球がどのような構造で噴火や地震といった激しい自然現象をもたらすのか、あるいは噴火等の予知はできないのか等と疑問が広がります。

気象庁の「活火山総覧」（第4版）によると、日本には110の活火山がリストアップされており、関東近辺では那須山、日光白根山、赤城山、榛名山、草津白根山、浅間山、富士山、箱根山および伊豆・小笠原諸島の多くの島があります。なお以前は死火山あるいは休火山という名称が使われていましたが、現在は科学的整合性から使用されなくなりました。

さて、火山の基本的な疑問として昨年の御嶽山の爆発は水蒸気爆発と言われ阿蘇山や桜島はマグマ爆発と言われます。この違いはどのように説明されるのでしょうか。また地球のマントルやマグマとはどのようなものかを見ていきたいと思います。

地球の構造は、外側から地殻・マントル・内核の3層構造と言われ、これは卵の構造（殻･白身･黄身）とほぼ似ています。ところで地球内部の温度は6000℃、圧力は400万気圧なので、マントルはこの圧力によって個体状態なのですが、ゆっくり対流して長時間で地球内部の温度を地表に放出しているそうです。さてここには爆発原因のマグマは出てきません。マグマは地殻近くのマントルが部分的に液化し、地殻に上昇したものと言えます。

マントルが上昇し液化する原因は、地殻プレートが移動して他のプレート下に沈み込み、その反動などの地震エネルギーや地殻の亀裂によるもの、また水の関与によるマントル液化などがあるそうです。圧力の低下からより流動性を増し、地殻を突き破り（爆発）融けた溶岩として出現するのが火山と言えます。

(写真は昨年9月御嶽山爆発の国土地理院の写真です。)

編集後記

◇今号の特集では、当会のおこなう河川敷での外来植物駆除活動を紹介しました。これは「外来植物対策」をテーマにした第1回生き物フォーラムで天田代表が報告したものです。◇当会の活動の成果は他地域でも注目されています。でも課題はまだまだたくさんあります。会員の皆さま、引き続きご協力よろしくお願い致します。　（梟）

エコシティ志木通信
第77号　2015年3月1日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX　048-471-1338（天田眞）
URL　http://kappa-no.net/eco-shiki/
E-mail　eco-shiki@ff.e-mansion.com

エコシティ志木の イベントカレンダー

2015年
3月→6月

「野火止用水ぶらり散歩」（昨年 11 月 30 日）のようす　〈写真：青木明雄〉

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

会員募集中!!

■年会費■
正 会 員　個人 **2,400円**　団体 **5,000円**
賛助会員　1口 **5,000円**

■入会方法■　郵便振替等で年会費を納入してください
〈振替番号〉**00510-4-13225**〈加入者名〉エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話／FAX 048-471-1338（天田眞）
【ホームページ】http://kappa-no.net/eco-shiki/
【E メ ー ル】eco-shiki@ff.e-mansion.com

イベント情報

●特に記載のない場合、申込不要・参加費は無料です。
●予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
●会員には毎月メール及びハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（場所は市内の 2 か所です）

【時間】9 時 30 分～11 時 30 分　（雨天中止）
【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）
　　あれば剪定用ハサミ・ノコギリ
【主催】NPO 法人エコシティ志木
【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部＆志木市都市計画課

＜西原ふれあい第３公園＞
【日程】3 月 8 日（日）・28 日（土）/4 月 12 日（日）、29 日（水）
　　5 月 9 日（土）、23 日（土）/6 月 14 日（日）、27 日（土）
【集合】9 時 30 分に東上線側入り口の坂を登ったところ
【内容】公園の清掃・下草刈り・保全等の作業を行います。

＜いろは親水公園＞

【日程】3 月 22 日（日）/4 月 26 日（日）
　　5 月 24 日（日）/6 月 28 日（日）
【時間】いずれも９時 30 分～11 時 30 分　（雨天中止）
【集合】9 時 30 分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋
【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、
　　ごみ拾い・下草刈り等の作業を行います。

◆いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」の保全作業
【日程】5 月 31 日(日)、6 月 17 日(水)　（雨天中止）
【時間】9 時～11 時 30 分
【集合】富士下橋左岸に 9 時集合
【内容】ヨシ・オギ群落保全地域の外来植物の抜き取りを行います。
【持物】作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）水筒、タオルなど
【主催】NPO 法人エコシティ志木

■調べてみよう

◆柳瀬川生き物ウォッチング＜原則毎月第三日曜日＞
【日程】3 月 14 日（土）/4 月 18 日（土）
　　5 月 17 日（日）/6 月 21 日（日）

【時間】いずれも９時～12　時　（雨天中止）
【集合】９時に富士見橋右岸の花壇のあるところ
【内容】※途中、志木中前で河原のゴミ拾いをします。
　　柳瀬川と水谷田んぼの約 4km を歩き、動物・植物の調査を行います。
【持物】双眼鏡、あれば図鑑
【費用】200 円（会員・中学生以下は無料）※家族は全員で１名扱い
【主催】NPO 法人エコシティ志木＆埼玉県生態系保護協会志木支部

◆身近な川の一斉水質調査
【日時】6 月 7 日（日）　９時～12 時 30 分　（小雨決行）
【集合】９時に志木市役所駐車場（志木市中宗岡 1-1-1）
【内容】市内８ヶ所の水を採取し、パックテスト等で水質を測定します。
　新河岸川水系約２５０ヵ所、全国約６，０００ヵ所と連携した調査です。
【主催】NPO 法人エコシティ志木
　　新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会
【費用】無料

■自然と文化を楽しもう

◆野火止用水ぶらり散歩「第 2 回」　～清瀬から玉川上水へ～
【日時】3 月 15 日（日）　９時～15 時 30 頃　（雨天時は中止）
【集合】以下の 2 か所（どちらでも構いません）
　●志木駅南口バス乗り場に８時１０分
　　８時１８分発　清瀬駅北口行　西武バス（８時５０分清瀬駅北口着）
　●清瀬駅北口階段下に９時
【内容】野火止用水に沿って清瀬から玉川上水の分岐点まで歩きます
【持物】お弁当、飲み物、レジャーシート、歩きやすい服装
【費用】300 円／人（会員 100 円／人、中学生以下は無料）
【主催】NPO 法人エコシティ志木

◆志木の自然観察（春）「五感で感じる川のまち志木」
【日時】4 月 19 日（日）　９時～12 時頃　（雨天中止）
【集合】9 時に東武東上線「柳瀬川駅」サミット前の円形広場
【内容】柳瀬川～旧新河岸川～新河岸川を散策し、市役所にて解散します。
【持物】筆記用具、あればルーペ、図鑑
【費用】会員無料（一般 200 円／中学生以下は無料
　　※家族は全員で１名扱い
【主催】NPO 法人エコシティ志木＆埼玉県生態系保護協会 志木支部
【後援】志木市教育委員会　生涯学習課

活動記録（2014年11月～2015年2月）

◆11月◆

22日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
23日（日）いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
25日（火）エコシティ志木通信印刷発行作業
30日（日）野火止用水ぶらり散歩第1回（志木～清瀬）

◆12月◆

8日（月）志木小学校こどもエコクラブ
13日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
14日（日）川でつながる発表会（所沢）【活動展示】
15日（月）志木市コミュニティ協議会地域活性化委員会
15日（月）志木小学校こどもエコクラブ
21日（日）柳瀬川生き物ウォッチング
21日（日）エコシティ志木定例運営会議
27日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
28日（日）いろは親水公園こもれびのこみち定例作業

◆1月◆

10日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
11日（日）県内一斉ガンカモ調査（柳瀬川）
15日（木）志木市内NPO法人連絡会議
15日（木）エコシティ志木広報会議
18日（日）柳瀬川生き物ウォッチング
20日（火）エコシティ志木定例運営会議
22日（木）志木市コミュニティ協議会理事会
24日（土）西原ふれあい第三公園定例作業
25日（日）いろは親水公園こもれびのこみち定例作業
26日（月）志木小学校こどもエコクラブ
27日（火）いろは親水公園カヤネズミ原っぱ反省会

◆2月◆

1日（日）冬の野鳥観察会（柳瀬川）
4日（水）新河岸川流域川づくり連絡会
5日（木）志木市内NPO法人連絡会議
8日（日）川の再生交流会（埼玉県）【活動展示】
9日（月）志木小学校こどもエコクラブ
14日（土）第1回生き物フォーラム【事例報告】
15日（日）柳瀬川生き物ウォッチング
16日（月）志木小学校こどもエコクラブ
17日（火）エコシティ志木定例運営会議

春の斜面林手入れに参加しよう

1月下旬が一番寒い時期のようです。作業を始める時は、体が冷えていて動きが鈍くなっているので、初めは無理をしないようにしています。30分もすると体の中から暖まってくるのが分かります。作業をしていても快適な具合になってきて、少しずつ汗ばんできます。家の中でじっとしているよりはとても健康的だと思って作業を楽しんでいます。

もうすでに「西原ふれあい第3公園」のロウバイが咲き、梅やミツマタも今月中には満開になります。「こもれびのこみち」のモクレンやツバキもきれいに咲くことと思います。

斜面林にはいろいろな野草や木々の花が次々と咲き、作業をしながらの観察も楽しみです。歩いて通り過ぎてしまうだけでは気が付きませんが、手入れをしているといろいろな植物や生き物が目に入り、楽しく観察することができます。

心身共に豊かな健康の為にも春の斜面林の手入れに参加しませんか！　（青木明雄）

みなさんの参加をお待ちしています！

NPO法人 エコシティ志木